

広報 / t's Osada Civil

平成30年 12月発行 (第42号)

発行：OSADA 長田建設株式会社 土木部

◇現場の紹介◇

新着情報

工事担当者より

OSADA

工事名：本荘漁港漁村再生交付金工事 21730-K01
工事場所：本荘漁港由利本荘市古雪町

コンクリート製残置型枠据付時の施工精度確保として、エーパイラー機械によりH型鋼の打込み作業を行い据付用定規を設置しました。残置型枠の現場搬入も始まり年明け後の据付に向け準備を進めており、今後は風雪時の安全対策や作業員への防寒対策などに気を配り冬期の作業にあたっていきます。



工事名：本荘地区構造物補修工事
工事場所：にかほ市象潟町川袋～由利本荘市石脇地内

本格的な冬となり、日本海特有の厳しい天候により作業中止とした日もあります。現場は引続き断面修復と剥落防止作業を進めていますが吊足場上での作業となる為、作業員が安心して作業ができるよう日々の安全点検を重点に重大事故防止に努めております。



工事名：市の沢川橋下部工工事
工事場所：にかほ市象潟町西中野沢地内

12月末現在、P1橋脚の足場・鉄筋組立作業とP2橋脚のコンクリート養生を行っています。当工事では一回の打設が高リフト可能なCF工法を選択し、P2躯体部では一度に高さ11.7mの打設を行いました。CF工法選択にあたり事前にこの工法で工事が行われている岩手県陸前高田市の防潮堤復旧工事現場を訪れ現場担当者や施工業者さんから工法についての詳しい説明をしていただきました。今回実際に施工した印象は高さ90cmずつの打ち上げにより型枠開口部から打設中の充填や締固めを近接目視しながら行うことができるため、確実なコンクリートの打設が可能となる他、コンクリート打設回数の削減による工期短縮が可能となる事がこの工法によるメリットと感じています。

CF工法とは、1回の打設高さが従来工法では最大5mだが、CF工法は3～4倍の打設が可能である。

親杭横矢板工法のように約1mピッチにH鋼(H-100)を建て込み、その間に縦90cm横90cmのベニヤ板3層のパネルを1段(H=90cm)ずつ建て込んで、横鋼管と木製キャンバーで固定しては、コンクリートを打設するという作業を繰り返しながら打ち上げていく工法です。

～岩手県陸前高田市 防潮堤復旧工事現場見学状況～

